

第5学年 社会科 学習指導案

1. 小単元名『自然条件と人々の暮らし（暖かい地域）』

（教科書：『小学社会 5 上』 p. 20～29／学習指導要領：内容（1）イ）

2. 小単元の目標

気候や地形などの自然条件の異なる地域の人々の生活を、自分たちの住んでいる地域の生活と比較しながら具体的に調べ、国土の自然の特色や、自然条件に適応してくらしている人々の工夫・願いを捉えることができるようにする。

3. 小単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
気候や地形などの自然条件の異なる地域の暮らしに関心をもち、自然条件に特色のある地域の様子について意欲的に調べている。	自然条件に特色のある地域の様子について、人々の暮らしの工夫や産業を自然条件と関連付けながら考えたり、くらしをよくしようとする人々の思いや願いについて考えたりできる。	自然条件に特色のある地域について、写真やグラフなどの資料から、自然条件の特色や人々の暮らしの工夫、思いなどを読み取ることができる。	自然条件に特色のある地域について、自然条件の特色や人々の暮らしの工夫、抱えている課題や人々の思いなどを捉えることができる。

4. 指導にあたって

（1）児童の実態

事前に行った児童へのアンケートでは、43%の児童が行ってみたい都道府県として沖縄県と答え、沖縄県に対する興味・関心が高い。また、国語の「言葉の研究レポート」でも33%の児童が沖縄の物産や方言について調べている。

（2）教材について

気候条件の異なる地域を調べるうえで、沖縄県と新潟県の事例を取り上げる。これは、沖縄県に対する興味・関心が高いということと、新潟県については自分たちの住んでいる県であり、第4学年での学習内容が生かされ、両県の生活について比較しやすいためである。

（3）指導上の工夫・留意点

本小単元は、社会生活の意味を主体的に調べ考え、社会的思考・判断力を高められるように、以下の2点に留意する。

①児童がゆとりをもって学べるような学習過程を工夫する

ア 1 単位時間の中で、「問題意識の醸成」「仮説の設定」「意見の交流などによる問題の解決」「学習のまとめ」を行うのではなく、児童がゆとりをもって学ぶことができるように、時間の保障など、それぞれの過程の構成の仕方を工夫する。

イ アに示したような学習過程を組む場面は、単元の中核的なねらいに迫らせる場面とする。

②児童が解決せずにはおれないという強い問題意識をもたせる

児童の問題意識を高めるために、児童の今までもっているものの見方や考え方との間に、「ずれ」を生じさせるような教材の開発と提示の仕方を工夫する。

5. 小単元の指導計画（総時数5時間）

時	ねらい	○学習活動 ・内容	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価
① (つかむ) 【本時】	沖縄県と新潟県 の家のつくりを 比較して、沖縄県 の家のタンクの 必要性について 問題意識をもつ ことができる。	○沖縄県と新潟県の家の写真を見て、気が ついたことをノートに書く。 ・屋根の形、家の材質、色、タンクなど ○両県の家づくりの共通点と相違点を 考える。 ・共通点…タンク ・相違点…屋根の形、家の材質、色 ○共通点であるタンクに入っているもの について考える。 ・新潟県…灯油 ・沖縄県…灯油、水など なぜ、台風が多く雨の多い沖縄県で、 タンクに水を貯める必要があるのか でしょうか。	◎沖縄県と新潟県の家の写真 （両者ともタンクが写っ ている写真を使う。） ◎沖縄県と新潟県の雨温図と 降水量の資料 ◇沖縄県のタンクには、水が入 っているという予想に落ち 着いたあと、両県の雨温図と 降水量の資料を提示して児 童の問題意識を醸成する。 ◆家のつくりの比較を通して、 沖縄の家々のタンクの必要性 について問題意識をもって いる。 （関・意・態／ノート）

② (調べる)	地図や資料を活用しながら、沖縄の家のタンクの必要性について自分の考えをもつことができる。	なぜ、台風が多く雨の多い沖縄県で、タンクに水を貯める必要があるのでしょうか。 ○地図や資料を活用しながら、沖縄の家のタンクの必要性について、自分の考えをノートにまとめる。 ・河川が短く、高い山も少ないため、雨が降っても海にすぐに流れ、水不足になる。 ○沖縄の人から話を聞く。 ・水不足に備えた沖縄の暮らし	◎沖縄県の地図 ◎沖縄県の立体地図 ◎沖縄こどもランド（ウェブサイト） ◇文字情報だけでなく、地図や立体地図を使って、実際に河川が少なく高い山が少ないことを確認させる。 ◆地図や資料から、沖縄県の自然条件を読み取り、それと関連付けて、タンクの必要性について考えている。（技、思・判・表／ノート） ◎ゲストティーチャー（沖縄県民）の話
③ (調べる)	沖縄県で行われている農業や水産業を調べ、温暖な気候を生かした産業が営まれていることを捉えることができる。	沖縄県では、暖かい気候を生かしてどのような産業がさかんなのでしょう。 ○写真やグラフ、統計資料などから、沖縄県の農業や水産業について調べる。 【農業】 ・さとうきび栽培、米の二期作、マンゴーやパイナップル、菊 【水産業】 ・マグロ ○沖縄県の農業や水産業と、気候との関わりについてノートにまとめる。 ・一年中暖かい気候を生かして、さとうきびや花、果物などの特産品をつくっている。 ・水産業では、暖流に乗ってきた魚を獲ったり、もずくを生産したりして、暖かい気候を生かしている。	◎沖縄県と新潟県の作付面積 ◎資料集，教科書，地図帳 ◎沖縄こどもランド（ウェブサイト） ◇ただ単に生産物を読み取らせるだけでなく、新潟県と比較させたり、違いがでる理由を考えさせたりする。 ◇地図帳を活用して、暖流の経路についても確認する。 ◆グラフや資料を効果的に活用して、沖縄県の農業や水産業の特色について捉えている。（技／ノート）

④ (調べる)	さまざまな資料を読み取ることを通して、沖縄県の自然環境や文化・歴史の特色、抱えてきた課題について捉え、その中で暮らす人々の思いや願いについて考えることができる。	沖縄県の自然環境や文化には、どのような特色があるだろうか。 ○写真やグラフ、統計資料などから、環境や歴史の面から沖縄県の抱えている課題について調べる。 ・サンゴ礁や青い海、首里城 ・エイサー ・琉球王国 ・米軍基地 ○沖縄県の自然や文化の特色と、それらに対する人々の思いや願いについて考える。 ・暖かい気候の影響を受けて、青い海やサンゴ礁など美しい自然がある。 ・琉球王国や外国の文化の影響を残した独自の文化がある。 ・戦争の体験を語り継ぎ、基地問題が解決することを願っている。	◎資料集，教科書，地図帳 ◎沖縄県の観光パンフレット ◎沖縄こどもランド（ウェブサイト） ◆沖縄県の自然環境や文化・歴史の特色，これまで抱えてきた課題について捉えている。 (知・理／ノート)
⑤ (まとめる)	これまで沖縄県について学習してわかったことを，新聞にまとめることができる。	沖縄県の人々は，どのような工夫をし，どのような願いをもって暮らしているだろうか。 ○これまでの調べ学習でわかったことを，新聞にまとめる。 ・家のづくり ・農業や水産業 ・自然や歴史 ・米軍基地	◎資料集，教科書，地図帳 ◎沖縄県の観光パンフレット ◎沖縄こどもランド（ウェブサイト） ◆これまでの調べ学習でわかったことを生かして，新聞にまとめることができる。 (思・判・表／新聞)

6. 本時の指導（第1時）

（1）本時のねらい

沖縄県と新潟県の家づくりを比較して、沖縄県を家のタンクの必要性について問題意識をもつことができる。

（2）本時の展開

時配	○学習活動 T：発問 C：児童の反応	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価
15	○沖縄県と新潟県の家の写真を見て、気がついたことをノートに書く。 T：これから2枚の家の写真を見せます。どこの県の家でしょうか。 C：Aは、うちの家と似ているから新潟県かな？ Bは、どこの県かわからないな。でも、コンクリートのようだから東京ではないか。 C：Bは沖縄県じゃない？テレビで見たことがある。 T：正解は、Aが新潟市で、Bが沖縄県那覇市の家の写真です。この2枚の家の写真を見て、気がついたことをノートに書きましょう。 C：【相違点】 ・新潟県の家は木でできているけど、沖縄県の家はコンクリートでできている。 ・屋根の形が、新潟県の家は斜めになっているのに、沖縄県の家は平らである。 ・沖縄県の家は、窓の部分に柵がある。 ・新潟県のタンクは家の横にあるが、沖縄県の家は屋根の上にある。 【共通点】 ・どちらもタンクがある。	◎沖縄県と新潟県の家の写真 ◇気がついたことを自由に発表させる。板書する際には、相違点や共通点がわかるように見やすく工夫する。
15	○相違点について考える。 T：それでは、なぜ沖縄県の家はコンクリートでできているのかな。また、屋根が平らになっているのかな。 C：沖縄県は、台風がよく来るので壊れないようにコンクリートでできている。 C：沖縄県は暑いから、コンクリートのほうがひんやりすると思う。 C：台風で飛ばされないように、屋根が平らになっている。 C：窓の部分の柵も台風に備えていると思う。	◇発表の際は、その根拠を明確にさせる。

	T：それでは、なぜ新潟県の家は屋根が斜めになっているのかな。 C：雪が降ったときに落ちやすいようになっている。 ○共通点であるタンクの中身について予想させる。 T：では、新潟県と沖縄県の家についているタンクには、何が入っているのかな。 C：新潟県のタンクは灯油だ。自分の家にもある。 C：沖縄県のタンクも灯油ではないかな。でも、屋根の上についているぞ。 C：屋根の上についているから、水ではないかな。ビルの上にも水のタンクがあるところがあるよ。 C：わからない。 C：資料を見ると、沖縄県では節水と呼ばれているよ。タンクには、水を貯めているのだと思う。	◎節水と呼ばかけるチラシ配りの資料 ◇沖縄県を家のタンクの中身については、児童からいろいろな考えを出させたあと、節水と呼ばかけるチラシ配りの資料を提示して、その中身が水であることに気づかせる。
15	でも、台風がよく来て雨の多い沖縄県で、どうして水不足に備えてタンクに水を貯めているのでしょうか。 ○次時の課題を確認して、本時を振り返る。 T：次の時間は、水不足に備えて水を貯める理由について調べましょう。それでは、今日の学習の振り返りを書きましょう。 C：沖縄県の家は、コンクリートでできているし、屋根の上にタンクがついていてびっくりした。 C：沖縄県の家は、台風に向けていろいろ工夫されている。 C：なぜ、雨の多い沖縄県で水不足になるのか、次の時間には調べてみたい。	◎沖縄県と新潟県の雨温図と降水量のグラフ ◇沖縄県と新潟県の降水量を比較させ、あまり差がないことを確認させて、児童の問題意識を醸成する。 ◆家のつくりの比較を通して、沖縄県を家のタンクの必要性について問題意識をもっている。 (関・意・態／ノート)

7. 備考

○導入で沖縄県と新潟県を家のつくりを比較させて、児童の沖縄県に対する問題意識を醸成させたことで、その後の調べ学習でも意欲的な追究ができた。

○本小単元での学習の進め方が、次の小単元「低地と高地のくらし」にも生かされた。